



パリ・ソウル駐在員通信

vol.7



クレアソウル事務所 所長補佐 菊地 和幸



アンニョンハセヨ！こんにちは！

去る2012年9月7日～10日に韓国・釜山広域市で「第15回釜山国際観光展」が開催され、その名の通り、世界中から観光PRを行う企業/機関/団体が集結し、連日大変な賑わいを見せました。

本稿では、今回初めてのブース出展を行ったCLAIRソウル事務所の活動をご報告します。



開催会場の BEXCO

■イベント概要

催事名	第15回釜山国際観光展
開催日	2012年9月7日（金）～10日（月） 4日間
開催場所	BEXCO（釜山市内にある国際展示場）
主催者	韓国・釜山広域市
参加業者	37ヶ国・234企業/機関/団体・430ブース
来場者数	91,691人
日本の参加団体	日本観光庁・日本政府観光局(JNTO)、自治体国際化協会(CLAIR)、北海道、北東北3県・北海道ソウル事務所、群馬県、東京観光財団、静岡県、熱海国際経済交流会、名古屋観光コンベンションビューロー、中部国際空港利用促進協議会、山口県、福岡県、福岡観光プロモーション協議会、長崎県、熊本県菊池市、鹿児島県観光連盟、東・中九州観光ルート協議会、(財)沖縄観光コンベンションビューロー、日本観光新聞社、ユニバーサルスタジオジャパン、ドンキホーテ

■CLAIR ブースの活動

各自治体から収集した観光案内ポスターでブースを華やかに演出し、机いっぱい観光パンフレットを敷き詰めてお客様をお迎えしました。また、日本酒の試飲イベントを行ったり、アンケート調査を行うなどして釜山近郊の方々の意識調査を実施しました。



クレアブースの様子



茨城県の観光パンフレット

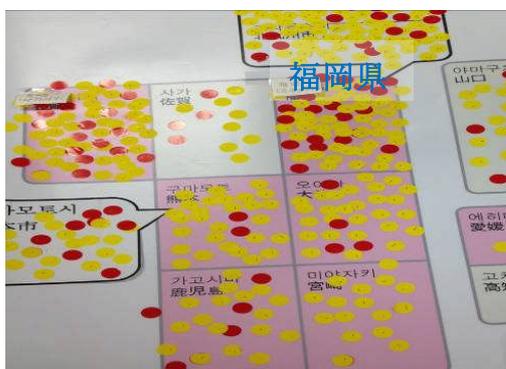
本観光展には、4日間で9万人以上が来場し、各国のブースとも非常に賑わったようです。CLAIRブースにも沢山の方々が訪問し、ノベルティグッズの配布や日本酒の試飲時には、ブース運営が一時困難になるほどの賑わいとなりました。「〇〇の地図がほしい」「〇〇の行き方は？」など多数の質問を受けましたが、「放射能は危なくないのか」という質問は、わずかに一人だけでした。

■釜山近郊の方々の意識

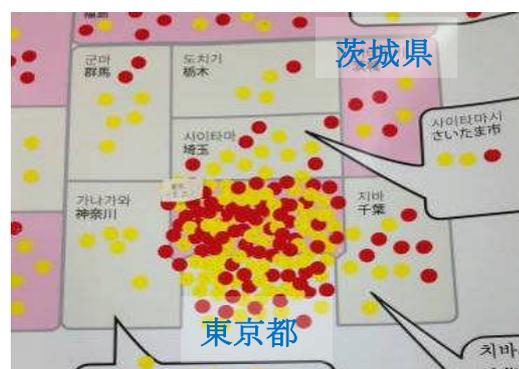
意識調査の目玉は、日本地図を用いたドットマップ作成です。行ったことがある地域に「黄色」、これから行ってみたい地域に「赤色」のシールを貼ってもらいました。これにより旅行先として人気のある地域と需要のある地域が一目瞭然となるわけです。



日本地図アンケート（ピンク＝直行便のある都道府県、吹き出し＝政令指定都市）



比較的分散されたシール（九州地方）



東京に集中するシール（関東地方）

釜山という地理的要因からか、九州への旅行経験者（「黄色」シール）が多い結果になりました。また、福岡県を中心にその他の九州地方にも多くの方が旅行していることが見て取れます。

■知名度の高い地域からの誘客

ドットマップを概観すると、東京都や大阪府・京都府には多くの旅行客が訪れていますが、その周辺にまで足を延ばす方は限定的なようです。最近では、こうした知名度の高い地域に集中する旅行客を分散し、他の地域を活性化させる方策として、県単独での観光 PR に加えて、複数県にまたがる広域地域を一つの観光地として誘客を図る団体が増えていきます。

本観光展の場合、九州地方では東・中九州観光ルート協会^{注1}が出展し、広域観光ルートの PR 活動を行いましたし、また、中部地方では中部国際空港利用促進協議会^{注2}が出展し、「まずは名古屋に来てもらう（担当者談）」ことを目指して PR を行っていました。

■おわりに

茨城県の知名度は、東京都への人気集中の影に隠れ、今ひとつといった印象でしたが、「ここに行きたい」とパンフレットを指さす方もおり、自然と説明にも力が入りました。

現在、茨城県では千葉県と外客来訪促進計画を策定し、両県をまたがる観光 PR を進めており、また、北関東3県（茨城、栃木、群馬）で連携した取り組みも始まっています。今後も、こうした広域観光を意識しながら、継続的に PR 活動を実施し、東京都に集中した旅行者の目を少しでも茨城県に向けさせられるよう努めてまいります。

^{注1} 北九州市、熊本市、大分市、別府市で構成

^{注2} 愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市などで構成